

はじめる助成団体に対するフォローアップ調査結果(2020年度)

I 2020年度の助成金応募状況

地球環境基金助成メニューの一つであるはじめる助成は、「助成期間で得られた知識・経験を用いて、将来はひろげる助成の対象になること」を期待して実施しているものである。

2019年度にはじめる助成を受けた11団体における、2020年度応募状況は以下のとおりであった。

表1 2019年度はじめる助成団体における、2020年度応募状況

| 2020年度 応募状況 | 応募 団体数 | うち採択 団体数 | うち不採択 団体数 | 不採択団体の不採択理由(抜粋) |
|----------------|-------------|--------------|--------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ひろげる 助成 | 1 | 1 | 0 | |
| つづける 助成 | 9 | 4 | 5 | <ul style="list-style-type: none"> ・必要書類の一部が不足しており、審査を行うことができなかった。 ・目標達成のための指標が要望書から十分読み取ることができず、活動の効果の把握について慎重な検討が必要と考えられることから、助成の優先度が低くなった。 ・要望額に見合った自己資金が計上されておらず、活動の効果の把握について具体的に考慮されていないため、優先度が低くなった。 ・事業実施への地域の関係者の関わりが要望書から十分読み取ることができず、また会計処理など事業実施体制に不安があることから、助成の優先度が低くなった。 ・上位目標、アウトカム目標実現のために、フィールドを選んだ理由が要望書から十分読み取ることができず、活動内容が目標に対し整合的とは判断できなかったことから、助成の優先度が低くなった。 |
| 応募なし | 1 (9.0%) | | | |
| 合計 | 11 | 5 (45.5%) | 5 (45.5%) | |

2020 年度に採択された割合は 45.5%(4 件)と、前回の調査(40%)と採択率、前々回の調査(35%)と比べて上昇していた。

また、ひろげる助成より、つづける助成に応募した団体の方が多かったこと(9 団体)は、つづける助成の目的や助成対象活動などが団体のニーズに合っていたからと考えられる。

次に、2019 年度にはじめる助成を受けた8団体のうち、2020 年度の助成団体として採択された5 団体と、応募したが不採択となった 5 団体を除く1 団体を対象として、助成を要望しなかった理由などをアンケート調査票で取りまとめた。

II 助成を要望しなかった団体について

1) 活動の継続実施の有無

「助成活動は、継続して実施していますか」という質問に対し 1 団体ともに「継続している」と回答した。(表2)

表2 活動の継続実施の有無

| 区 分 | 対象団体数 1 件 |
|------------|-----------|
| | 件 数 |
| a. 継続している | 1 |
| b. 継続していない | 0 |

2) 助成を受けて行った活動の志向について

地球環境基金の助成を受けて行った活動について、1 団体もつ志向は、以下のとおりであった。(表3)

表3 助成を受けて行った活動の志向について

| 回 答 項 目 | 対象団体数 1 件 |
|---------------|-----------|
| | 件 数 |
| a. 現在の活動規模を拡大 | 1 |
| b. 現在の活動規模を維持 | 0 |

3) 活動人数の変化と資金の変化へのコロナ禍の影響

「活動人数の変化について、コロナ禍の影響を受けていますか」という質問への回答は以下のとおりであった。(表 4)

なお、この質問については、社会状況を鑑みて今年度設置した質問である。

表 4 コロナ禍の活動人数への影響

| 回答項目 | 対象団体 1 件 |
|-----------------|----------|
| | 件数 |
| a. 影響を受けてない。 | 1 |
| b. 少し影響を受けている。 | 0 |
| c. 大きく影響を受けている。 | 0 |

「資金の変化について、コロナ禍の影響を受けていますか」という質問への回答は以下のとおりであった。(表 5)

なお、この質問については、社会状況を鑑みて今年度設置した質問である。

表 5 コロナ禍の資金への影響

| 回答項目 | 対象団体 1 件 |
|-----------------|----------|
| | 件数 |
| a. 影響を受けてない。 | 1 |
| b. 少し影響を受けている。 | 0 |
| c. 大きく影響を受けている。 | 0 |

4) 助成終了後の現在の財源について

助成終了後の現在の主な財源は、以下のとおりであった。(表4)

表4 助成終了後の現在の主な財源について(複数回答可)

| 回 答 項 目 | 対象団体数 1 件 |
|--------------------|-----------|
| | 件 数 |
| a. 国の補助金(地球環境基金以外) | 0 |
| b. 民間財団等の助成金 | 1 |
| c. 寄付金 | 0 |
| d. 会費 | 0 |
| e. 事業収入 | 0 |
| f. その他 | 0 |

5) 2020 年度の助成を要望しなかった理由について

2020 年度の地球環境基金の助成を要望しなかった理由は、以下のとおりであった。(表5)

表5 2020 年度の助成を要望しなかった理由について(複数回答可)

| 回 答 項 目 | 対象団体数 1 件 |
|----------------------------|-----------|
| | 件数 |
| a. 活動の目的を達成した。 | 0 |
| b. 団体の活動を休止または団体を解散した。 | 0 |
| c. 助成の申請手続き・精算が複雑すぎる。 | 1 |
| d. 助成を受けるための資格要件が乏しい。 | 0 |
| e 助成制度が要望に合わない。(助成金の使途制限等) | 0 |
| f. その他 | 0 |

※具体的な理由として、「精算のための工数が 他助成金と比べて 2 倍から 3 倍かかってしまう」と回答した。